

## 🐎 埋蔵文化財最新発掘調査情報 🐎

◆朝霞市では、現在69か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。

### 🔑 みやはら・つかごいせき 宮原・塚越遺跡第6地点

調査地：朝霞市根岸台二丁目地内

期間：令和3年5月31日～6月15日

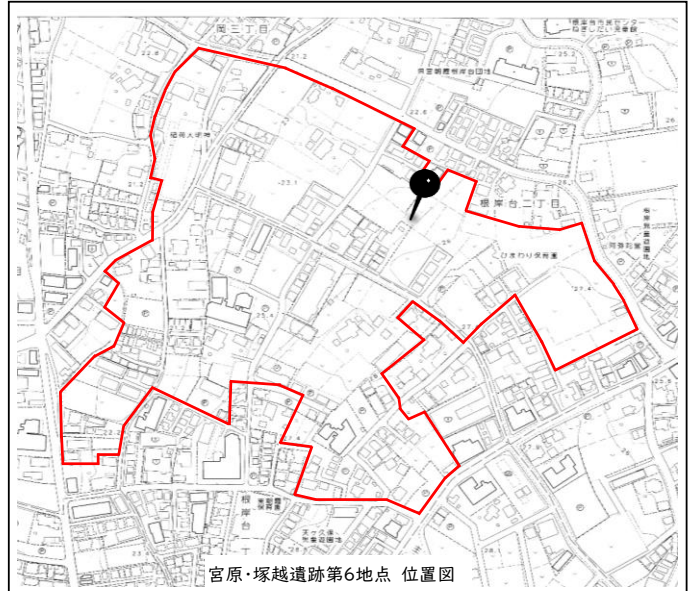
調査面積：100.80㎡

◆今回の調査では、掘立柱建物跡1棟、溝跡1条、ピット等が確認されました。

遺物は、縄文土器、土師器、陶磁器、石器が出土しました。

掘立柱建物跡は、柱間約2.4mの2間四方で、1本は調査区外に位置していると思われますが、建物の外壁面に柱が並ぶ側柱建物（がわばしらたてもの）と考えられます。この遺構に伴う遺物はありませんでしたが、埋まっていた土の様相や周辺の発掘調査の結果から、平安時代の掘立柱建物跡と考えられます。

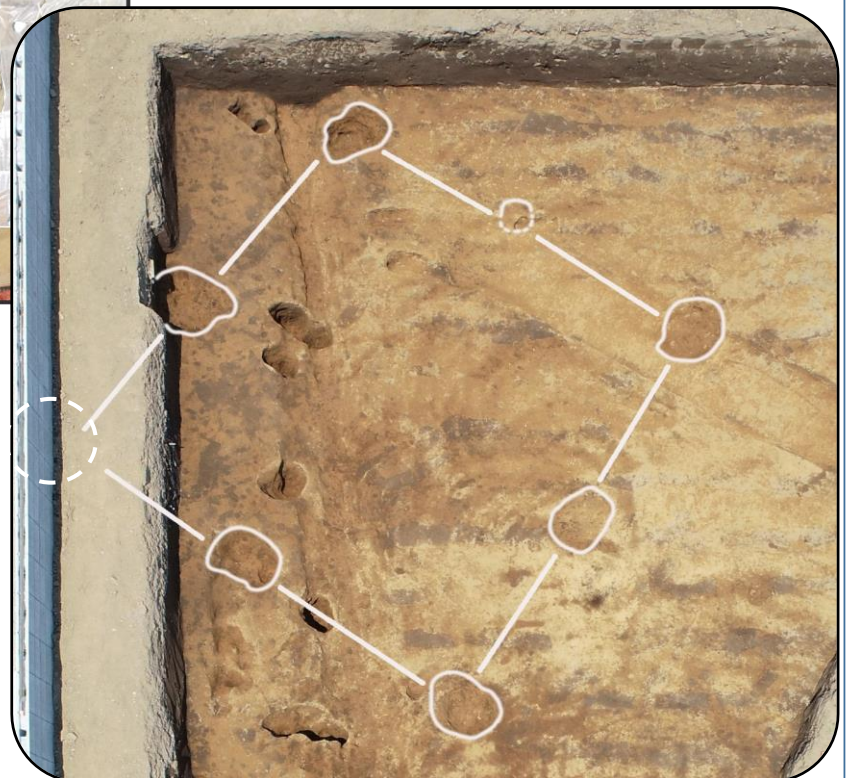
周辺では、同時期の住居跡や掘立柱建物跡が数多く見つかっていることから、平安時代には当調査地点一帯に集落が存在していたと考えられます。



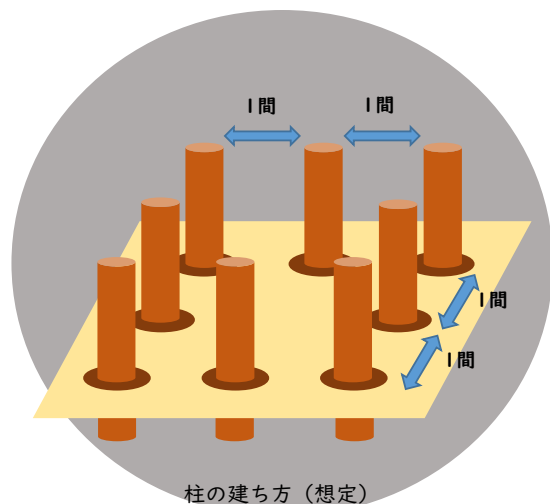
宮原・塚越遺跡第6地点 位置図



全景写真



検出された掘立柱建物跡



柱の建ち方 (想定)





おおせといせき

## 大瀬戸遺跡第19地点

調査地：朝霞市宮戸三丁目地内

期間：令和3年5月25日～6月2日

調査面積：15.80㎡

◆今回の調査では、ピット18基が確認されました。

遺物は、縄文土器、土師器が出土しました

ピットは、発掘調査現場で土坑より小さい穴（掘り込み）、細い穴状の遺構などを総称して使用される言葉です。竪穴住居跡などの柱の穴と判明したピットは柱穴（ちゅうけつ）といった名で呼ばれますが、性格がはっきりしない穴はピットとなります。

今回、見つかったピットは、調査範囲が狭小であったため、竪穴住居跡の柱穴や掘立柱建物の柱穴の並びといった規則性等は分かりませんでした。また、ピット内からも遺物の出土はなく、いつの時代のピットかも分かりませんでした。

しかし、ピット周辺から縄文土器や土師器といった遺物が出土していること、また周辺の発掘調査結果からも同様の時期の遺構・遺物が確認されていることから、当調査地点も、何かしらの人々の生活の営みがあったことが考えられます。



大瀬戸遺跡第19地点 位置図



調査区全景



むかいはら・なかさはらいせき

## 向原・中笹原遺跡第2地点

調査地：朝霞市根岸台七丁目地内

期間：令和3年6月15日～6月21日

調査面積：32.35㎡

◆今回の調査では、土坑1基が確認されました。

遺物は出土しませんでした。

土坑は、大きさ約2.5m、深さ約1.0mと大きく、また掘り込みは非常に凸凹とした形状でした。土坑の土の埋まり具合から、大きな木が倒れた跡である可能性が高いと考えられます。

遺物が出土しなかったため、正確な時期は不明ですが、埋まった土や埋まり方から縄文時代であると考えられます。

今回、調査した地点は、谷へ落ちていく斜面のやや緩やかになった場所であり、縄文時代には当調査地点周辺に樹木が生い茂っていた状況が見えてきます。

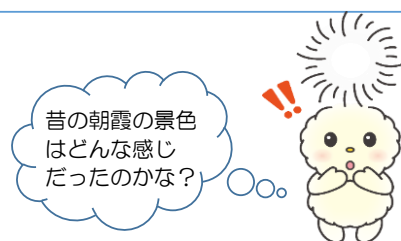
考古学の中には、『環境考古学』という、遺跡の古環境を復元し、その環境と人々の生活がどのように結びついていたか、という研究分野があります。今回の調査結果も、当遺跡周辺の古環境を復元するのに非常に重要かつ貴重な資料となります。



向原・中笹原遺跡第2地点 位置図



検出された土坑



昔の朝霞の景色  
はどんな感じ  
だったのかな？